

コミュニティケア

2020
年

1
月号

Nursing **now**

看護の力で健康な社会を！

Nursing Now は、ナイチンゲール生誕200年を機に、看護職が持つ可能性を最大限に発揮し、人々の健康向上に貢献するために行動する世界的なキャンペーンです。日本看護協会は、日本看護連盟と連携し、「看護の力で健康な社会を！」をテーマに、キャンペーンに取り組んでいます。

は個室が当然、とユニット型特別養護老人ホームを促進したまではよかったのですが、それからほどなくして、ホテルコストとして家賃を徴収するようになった変節ぶりにはあっけにとられました。人を2階に上げてはしごを外すような政策転換だったからです。全室個室の高齢者ケア施設を促進した心ある建築家や厚生官僚、事業者の志は疑うべくもありませんが、「施設でもなく、在宅でもなく」と言われた個室特養は、いずれは在宅ケアへの過渡期の産物だった、と言われるようになるでしょう。

世界の潮流を見れば、脱施設化は着々と進んでいます。デンマークではプライエム（高齢者ケア施設）からプライエボーリ（自立支援型高齢者住宅）への転換が進み、プライエムのこれ以上の建設は中止されるに至っています。施設から在宅へのシフトは、正しい解だといえます。

人口10万人当たりの病床数とその自治体の医療費は正の相関にあります⁴⁾。病院数・病床数を増やせば増やすほど、医療保険財政を圧迫するのは火を見るより明らかです。財政破綻した北海道夕張市で医療改革に大胆に取り組んだ医師、森田洋之さんの経験によれば、病院を廃止して有床診療所に変え、地域医療を中心に展開したら、住民の健康状態は変化がなかった半面、コストは大幅にカットされたといえます。私たちは病院信仰・施設依存から、そろそろ脱する時期でしょう。

地域包括ケアと在宅

そこで重要となるのが地域包括ケアです。“包

括”という言葉が用いられたのは、在宅看取りを可能にするには医療・介護の一体運用が必要だという認識からです。従来の社会保障は、医療・介護・障害福祉・子どもなど、行政の縦割りの壁が厚く存在しました。その壁を乗り越える必要があるとの認識がようやく広まったことは歓迎しますが、問題は、その“包括”が再び医療主導で行われているように見えることです。

多様なサービスを組み合わせる高齢者の暮らしを守るに当たり、まず前提条件となるは在宅生活の維持です。医療・看護・介護の一体運用は必要ですが、その中でも介護力がなければ高齢者が自宅で暮らし続けることはできません。在宅医療や訪問看護の専門家の志がどんなに高くても、そもそも高齢者が家に留まらない限り、在宅医療は成り立ちません。暮らしを支えるための“三大介護”と呼ばれる食事・排泄・入浴介護を主に支えるのは介護職です。そこで私は、「介護が面、看護は線、医療は点」と発言してきました。

地域医療は看護職にとって、医師からの自立の最大のチャンスです。保健師助産師看護師法などにより、看護職は医師の指示の下でしか動けないようになっています。しかし、在宅は医師にとって病棟と異なり“アウェー”の場です。在宅の現場を知悉しているのは、医師よりも看護職、看護職よりも介護職でしょう。医師にはできない判断や療養者の意思決定を支援し、介護職と協力して高齢者の在宅を支える……そのためには看護師の役割は大きいと言えます。

●在宅看取りの経験値は向上

高齢者ケアには、在宅ターミナルケアと認知

好評発売中！
 2019年11月
 臨時増刊号
 看護師が
 社会を変える！
 「日本財団在宅看護センター」の
 挑戦

特集 むくみのアセスメントとケア

むくみは健康な人でも経験する症状であり、軽視されがちです。しかし、心臓病・腎臓病などの疾患や薬剤による副作用、低栄養、サルコペニアなどからも生じるため、アセスメントが非常に重要です。本特集では、むくみの原因と症状の現れ方、アセスメントを解説するとともに、支援の実態を報告します。

第2特集 高齢者の眼の病気

厚生労働省の調査によると、世代ごとの気になる傷病は、60歳以上では「眼の病気」が高血圧症・糖尿病・脂質異常症・腰痛症に次いで多く挙がりました。高齢者に多く生じる眼科疾患の基礎知識と最新の治療・医薬品、看護職が行う支援や視覚障害のある人へのケアのポイントを紹介します。

● コミュニティケア 2020年1月 Vol.22 No.1 277号

1

編集後記

- 2020年、人生2回目の厄年を迎えます。しかも大厄。昨年は、突然発症したせき喘息・細菌感染による胃腸障害・サッカー練習中での左内転筋損傷・原因不明の臀部痛などに見舞われ、前厄にふさわしい年を過ごしました。今年は年始早々にお祓いをせねばと固く決意しています。(中島)
- 友人のユダヤ人によると、ヘブライ語の新年のあいさつの定型句は「よい&甘い1年になりますように」。「よい」だけだと「苦勞をとおして人間的に成長する」などもあり得るため、できればあまり大変でないといいなあ、という主旨だそう。皆さまの1年もよい&甘いものになりますように。(村山)
- 表紙をリニューアルしました。姉妹誌「看護」と同様に、今年は通常号がピンク、臨時増刊号が緑です。来年以降も色で展開していきます。これからはイラストに頼らず、さらに中身で勝負！編集スタッフ3人でこだわりを持って制作していきます。引き続きよろしく願いいたします。(向山)

- 発行所
 (株)日本看護協会出版会
 東京都渋谷区神宮前 5-8-2
 日本看護協会ビル 4F(本社)
 TEL 0436-23-3271(コールセンター:ご注文)
 郵便振替 00190-8-168557
 東京都文京区関口 2-3-1(編集)
 TEL 03-5319-8019
- 発行人 井部俊子
- 編集長 向山恵美子
- 編集者 村山みのり、中島祥吾
- DTP 今村陽子、浜中葉子
- 発行日 2020年1月1日
- 定価 本体 1,400円+税
- 印刷所 図書印刷株式会社

- 編集委員
 岡島さおり、木下朋雄、佐藤美穂子
 椎名美恵子、鳥海房枝、和田洋子
- アドバイザー委員
 阿蘇ひろ子、海老根典子、中嶋康子
 塙真美子、林田菜緒美、松木満里子
- 表紙デザイン
 白井新太郎
- 本文デザイン
 新井田清輝、佐藤忠、paper stone
 齋藤久美子
- 本文イラスト
 榎本はいほ、狐丸
 齋藤ひろこ(ヒロヒロスタジオ)
 TOKUDOME

☆編集部へのご連絡は cc@jnpsc.co.jp にいつでもどうぞ！ ご感想をお待ちしております。